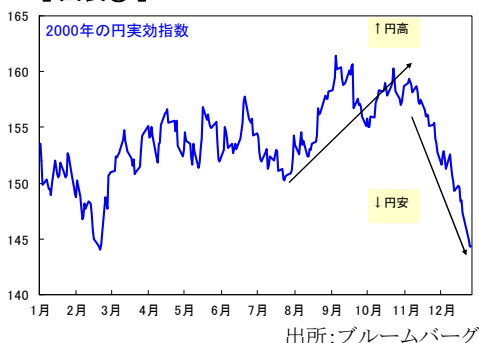


11～12月期の円相場の特徴（ポジション調整にご用心）

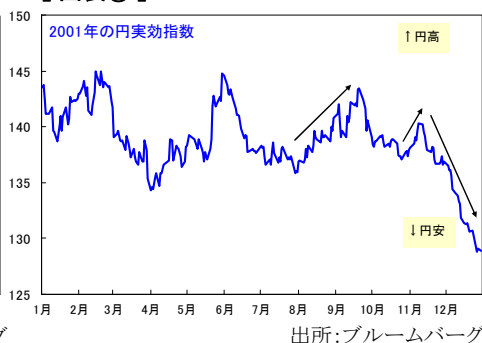
- ✓ 2000年以降、例年11月下旬から12月の円相場は、それまでの基調(トレンド)に対して、調整が入る傾向がある。
- ✓ 今年も例年通りの展開となった場合、より利益が乗っている豪ドルやブラジルレアルの調整幅が、ドルやユーロよりも大きくなる可能性も視野に入る。

ヘッジファンドの決算が11～12月を中心に予定されていること、またクリスマス休暇を含む長期休暇の季節が近くなると、例年世界の投資家は利益確定の為にポジションの多くを一旦解消する傾向があります。その動きは11月下旬の感謝祭前後から加速し始めます。この影響もあるのか、円実効指数は、2000年以降において(2006年は例外)、毎年11月下旬から12月にかけて、調整局面に入る傾向があるようです(図表①～⑩参照)。2009年の年末相場の展開は例年通り、それまでの基調の調整が起きるのでしょうか？要注目です。重要なことは、ポジション調整が起きる可能性を視野に入れておくことです。ポジション調整が起きるとすれば、より利益が乗っている通貨の調整幅が大きいと考えられます。今年の場合、豪ドル、ブラジルレアルの調整幅の方が、ドルやユーロよりも大きい可能性が視野に入ります(図表⑩参照)。

【図表①】



【図表②】



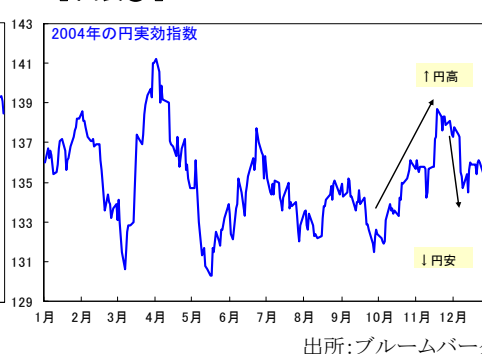
【図表③】



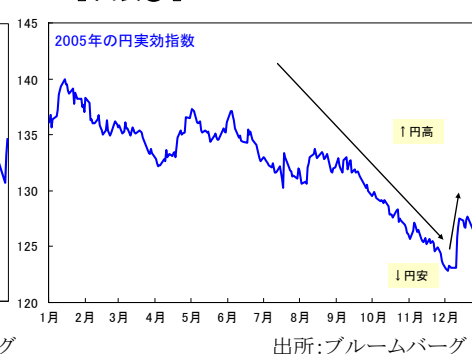
【図表④】



【図表⑤】



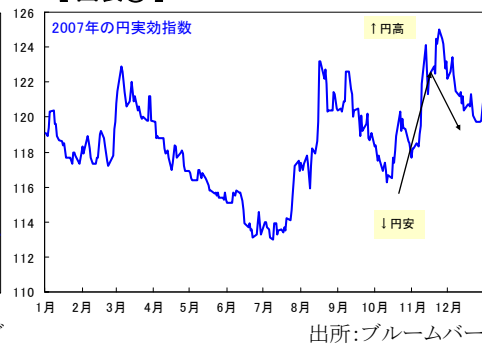
【図表⑥】



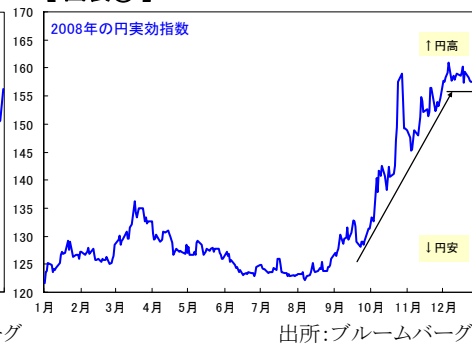
【図表⑦】



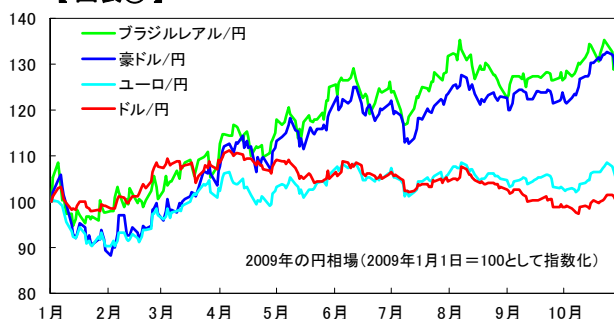
【図表⑧】



【図表⑨】



【図表⑩】



ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

